

成果の説明書

(氏名) 黒川基裕	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>1.1. 改良クッキングストーブの開発研究</p> <p>継続研究となっている途上国向けの改良クッキングストーブの開発については、2024年8月にインドネシアで実証実験をおこなった。インドネシアでの実証実験は、2022年以来2年ぶりであったが、インドネシア協同組合・中小企業省とともにジャカルタ西部に新たに3村のプロジェクトサイトを設定し、デモンストレーションや消費者使用テストを遂行した。</p> <p>今回の実験では、2024年2月にチュニジアに投入したモデルを更に改良したプロトタイプを採用した。1. 熱伝導を有効活用することで加熱時間を約10分間延伸し、2. 燃焼部を約30%低床化することで、使用時のバランスを安定化させたことが特徴であるが、それらの効果を中心に検証した。</p> <p>結果として、新しいモデルのスタイリングや安定感には高い評価が寄せられ、予熱の有効活用についても使用者の理解を得ることができた。一方、今回から導入しはじめたトップダウン方式での着火については、安定燃焼までに時間がかかり、いい評価を得ることができなかった。</p> <p>プロジェクトサイトでの活動状況については、現地のメディアで広く伝えられた。</p> <p>https://www.jurnalindustry.com/gandeng-kurokowa-laboratory-jepang-kemenkopukm-kembangkan-green-economy-di-kalangan-umkm/</p> <p>https://trijayanews.id/ekonomi/koperasi-ukm/kemenkopukm-dan-kurokawa-laboratory-jepang-kembangkan-kemitraan-di-sektor-ekonomi-hijau/</p> <p>https://klikwarta.com/kemenkopukm-dan-kurokawa-laboratory-jepang-kembangkan-kemitraan-di-sektor-ekonomi-hijau</p> <p>1.2. 米麺の簡便製法研究</p> <p>昨年度に執筆した以下の論文が、予定通り掲載された。</p> <p>アジアを起点とした米麺文化の移植可能性：アフリカ・ガーナにおける米麺の潜在需要 黒川 基裕, グエン・ティ・ホアン・ハー, グエン・ティ・ハイ, タ・ティ・ホアイ アジア経営研究 30(1) 93-106 2024年9月</p> <p>一方、本年度の取り組みとしては、2024年9月にチュニジアにおける食味実験を実施することができた。今回は2023年にガーナで実施した調査方法と同様の手法で米麺の食味調査を実施することと並行して、うどんの食味実験を実施した。調査方法の設定上、米麺とうどんの間の嗜好は捉えていないが、それぞれの麺について味付けや硬さなどの項目を評価することができた。</p> <p>米麺に関しては、麺の形状にカットする工程に課題が残されていたため、今回は、米</p>	

麺シートとして被験者に提供することとし、味噌、ハリッサ、あんこ、チョコレートソースなどを具材として包み込む形式で実験を行った。今回は、デザートメニューとしての評価が高いことがわかったことが昨年度のガーナ調査とは異なる発見となる。

1.3. 途上国市場に向けたデザインのローカライズ研究

クールジャパン研究に関連して推進している途上国市場攻略のためのローカライズ研究としては、2022年にミャンマーで収集したデータを用いて、(年収 3,000 ドル以下の) BOP セグメント層の需要が地域別・所得階層別でどのように異なっているのかを分析した。通常、商品・サービスの提供は所得階層別にターゲットユーザーを設定しマーケティング活動を推進することが多いが、今回の分析では、所得別よりも地域別で消費者の嗜好がより強く顕在化されるということがわかった。

また、日本の繊維産業について、今後の海外展開に向けたブランディングの在り方を検討するために、以下の講演会を通してアジア市場の現場や海外市場で有効的なブランディング・マーケティング手法について情報共有した。

黒川, 基裕・Khin Sandar Thein (2024)「BOP グループの潜在需要と地域特性」『地域政策研究』27(2): 25-35

黒川基裕 (2024)『繊維産業の海外展開に向けたブランディングの強化』令和 6 年度繊維工業試験場講演会 (2024 年 9 月 24 日開催)

1.4. ASEAN の経済動向研究

国際貿易投資研究所 (ITI) の客員研究員として ASEAN の経済共創に付いて検討する研究会に参画し、以下の報告と論文をまとめた。

黒川基裕 (2024)「東南アジア戦略の Re-design : 成熟した現地企業・起業家の分析と今後の協働のための処方箋」第 2 回 (JKA) ASEAN 研究会 (2024 年 10 月 25 日開催)

黒川基裕 (2025)「ASEAN との経済共創に寄与するグローバル人材の再定義」『変貌する ASEAN 市場と日本・ASEAN の新たな分業構築調査研究事業』報告書

2 その他の事項

学内では、国際交流委員会、地域政策学会の業務を担当した。

3 次年度以降の計画・抱負

改良クッキングストーブについては、インドネシアで新たな潜在需要を発掘したため、現地のニーズに応える設計変更に取り組んでいきたい。

チュニジアでは、カウンターパートから新たに干し柿のプロジェクトについて共同研究の引き合いがあったため、今後の関わり方を検討していく。

本年度はあまり進捗がなかった浄水ボトルの研究については、共同研究先の確保を含めて、プロジェクト全体を再構築していきたい。